



小児看護専門看護師

小児看護専門看護師は、様々な健康問題を抱えた子どもと家族が、病院および地域での生活において、健やかに成長・発達していけるように支援しています。その際、子どもと家族が持っている「力」を最大限生かすことを大切にしています。

入院している子どもと家族の「しんばいごと」への

病気やケガで入院している子どもと家族にとって、入院生活は不安の連続で、治療や検査に伴う痛みは今後の影響を及ぼしかねない体験となることもあります。そのため、子どもの抱える「しんばいごと」を解消するために年齢に応じた説明を行い、痛みを最小限にできるように努めています。



プロジェクト活動

地域で医療的ケアを必要とする子どもと家族がよりよく生活するため

医療的ケアを必要とする子どもは、子どものサインを捉えたいきめ細やかなケアを必要とし、ちょっとしたケアの工夫が状態の安定化に重要となります。病気で入院をチャンスに、子どもに必要なケアを多職種と連携し見直すとともに、家族に必要な支援についても調整ができるように努めています。



子ども手帳

入院している子どもの発達を促進するために「今できる」支

入院している子どもは、治療のために活動が制限され、発達が阻害されてしまうこともあります。日々成長・発達している子どもたちが、治療を受けながら発達が促進できるように、保育士をはじめとする多職種や家族と連携を図りながら、子どもたちに「今できる」ことを共に考えられるように努めています。



乳児発達支援チームのGCUラウンド

小児看護に携わるスタッフが育つ組織を

子どもは発達途上にあるため、自ら言葉にして訴えることが難しいことがほとんどです。子どもの声にならない訴えをいかに捉えるか、新人から子どものアドボケートとしての役割を担うことができるように集合研修や勉強会を開催しています。また、OJTの充実を図るためにバディ制を導入し、共に育つ環境を創り、気づかいのある看護の実現に努めています。さらにスタッフが看護の成果を実感できるように、研究支援を行っています。



がんになった親を持つ子どものサポートチーム「こぐまチーム」キャラクター

病気の家族（親、きょうだい）をもつ子どもへの

子どもは、年齢によっては、「自分が悪いことをしたから病気になってしまった」と自責の念を感じてしまうこともあります。親ががんになった子ども、きょうだいが病気になった子どもへ、「あなたのせいではない」ことを伝え、子どもの持つ困難を乗り越える力が発揮できるように努めています。

毎日「子どもにとっての最善とは？」と自らに問いかけ、スタッフとたくさん話をしながら、共に小児看護を楽しみながら奮闘しています。小児病棟のみならず、GCU、ICU、成人病棟などのスタッフと共に子どものケアを考え、小児看護の楽しさを知ってもらえることは大きな喜びです。

実践を通して出会える、子どもと家族の笑顔と、子どもからの「ありがとう♥」「がんばったよ！」は活動の原動力となっています。

